JATAツアーグランプリ2026

184作品から11作品が受賞

日本旅行業協会（JATA）は11日、国内、海外の企画旅行（募集型、受注型）、訪日旅行で実施された企画提案の中から優れた作品を表彰する「ツアーグランプリ2026」の受賞者・作品を発表した。前回の応募数を大きく上回る184作品の中から、11作品が受賞した。ツアーグランプリは、旅行業における企画力とマーケティング力の向上、「観光立国」の施策に寄与することを目的に設立された表彰制度。「国内旅行部門」「海外旅行部門」「訪日旅行部門」の合計三つの部門で表彰を行い、それぞれに「観光庁長官賞」1点、「優秀賞」複数点、「審査員特別賞」複数点を用意する。最も優秀な取り組みに対しては、全応募の中から1点のみ「国土交通大臣賞」が贈呈される。

国土交通大臣賞

クラブツーリズム

流氷タッチ・おーろら
5つ星の宿 知床第一ホテルに泊まる ザ・流氷7景2日間

国内客と訪日客の混載 施設側からも喜びの声

今回、応募作品の中で最も高い評価の「国土交通大臣賞」には、クラブツーリズムの「流氷タッチ・おーろら　5つ星の宿　知床第一ホテルに泊まる　ザ・流氷7景2日間」が選ばれた。冬の北海道における移動の課題を、プロの添乗員同行のもと徹底した安全管理で克服。多言語対応や自社サイトでのダイレクトな集客モデルを確立した点も高く評価され、受賞に至った。

大自然が残る北海道・知床で、流氷が見られる1月下旬から3月上旬までの間に行われる同ツアーは、道内在住者、道外旅行者、訪日旅行者など、さまざまな旅行客の混載で催行。ツアー参加者のうち、約6割はアジア系の訪日客が占めている。また、ツアーで宿泊する知床第一ホテルは、観光経済新聞社主催の「人気温泉旅館ホテル250選」に通算5回以上入選した施設に与えられる「5つ星の宿」に認定されている。

ツアーを企画した同社マーケティング本部国内旅行部北海道エリア開発センターのチーフリーダー・寺西さつきさんは、「（ターゲット層が）全方位型となっているため、設定数も多く増やすことができる」と話す。宿泊施設も、インバウンドを1人ずつ対応するよりも負担が少ないことから、施設側からも喜びの声が聞かれていると笑顔を見せた。

記念撮影の様子（写真左から観光庁の根来恭子参事官、クラブツーリズムの寺西さつきさん、KNT―CTホールディングスの小山佳延社長）

観光庁長官賞

海外旅行部門

車椅子利用者のためのエジプト受注型企画旅行
（＋募集型企画旅行”たびのわツアー”）

エイチ・アイ・エス

旅行控えが起こる中、明確に「行く意味」「滞在の質」を提示し、プレミアムな体験価値を創造した。車いす利用者という特定のニーズに寄り添い、安全面と快適性を徹底的に最適化。海外旅行への心理的ハードルを大きく下げた。大人数に依存せず少人数制を維持しながらも、高い収益性を確保するビジネスモデルを確立した。海外旅行本来の「豊かさ」を再定義し、誰もが旅を楽しめるユニバーサルツーリズムの新しい方向性を示した。

国内旅行部門

国消国産応援企画
まるごと但馬in城崎温泉

農協観光

地域の「食」「暮らし」をテーマに、生産者や観光協会と深く連携した地域共生型のツアー造成が高く評価された。単なる観光地巡りにとどまらず、希少な農産物の収穫体験や日常の市場をプログラムに組み込むことで知的好奇心を刺激する旅へと昇華させた。自家用車でしかアクセスが難しいエリアへの移動手段も確立し、過疎地域への誘客や閑散期の観光分散に大きく貢献。地域と旅行会社が相互にメリットを享受できる作品となった。

訪日旅行部門

Japón Colorido
（ハポン コロリード）

JTBグローバルマーケティング＆トラベル

訪日市場が成熟期を迎える中で、「モノからコト、そして人と関わる旅」への質的変化を感じさせる作品。日本の伝統的なコミュニティに訪日需要を融合させ、言葉の壁を越えた国際交流の場を創出した。自社サイトを駆使した多言語での集客モデルを確立し、オーバーツーリズムの解消や地方分散にも大きく寄与している。添乗員によるきめ細やかなマナー啓発など、地域社会との摩擦を防ぐ配慮も行き届いており、訪日旅行の模範となった。

優秀賞

『トワイライト・ウォリアーズ　決戦！九龍城砦』
香港の聖地と舞台をめぐる旅 オフィシャルツアー

近畿日本ツーリスト

専門ナビゲーターやメディアと深く連携し、映画の舞台を網羅。ファンの熱量を起点とした「没入型の文化体験」を実現した点が高く評価された。ツアーだからこそ立ち入れる特別な体験や現地の人々の関わりを設計。混雑期を避けた日程設定など、オーバーツーリズム対策としての有効性も持ち合わせた。

シゴトリップ（特許申請中）

アーストラベル水戸

これまでにないユニークなテーマ性と、地域の経営資源を大胆に掛け合わせた。特定のターゲットを引きつけるコンテンツ力があり、移動手段としての旅を「その場所に身を置くこと自体が目的となる旅」へと演出。関係人口の創出にも直結させた。良質な着地型企画を、持続的なビジネスモデルとして定着させた。

香港中高生
訪日吹奏楽演奏交流

JCプラン

日本の地域コミュニティとインバウンド需要を高いレベルで融合させた点が高く評価。「音楽」という言葉の壁を越えたツールを通じて、香港の中高生と日本の地域との間に温かい交流を創出し、教育旅行の新しい価値を提示した。地方での開催としたことで、地方分散や地域インフラの活性化にも直結させた。

審査員特別賞

マチュピチュ遺跡・イグアスの滝・リオデジャネイロ・ナスカの地上絵
ゆとりとこだわりの南米周遊14日間

クラブツーリズム

長距離・長日数の旅行における最大の課題「移動の負担」を、連泊重視の行程設計と安全管理で応えた。各滞在先での〝滞在の質〟を徹底追求し、深い文化理解と環境への配慮を両立させた。明確な目的を持った旅慣れた顧客層に対し、旅行会社だからこそ提供できる高い付加価値とプレミアムな体験を創出した。

80歳以上の方におすすめ　同世代で行く・やさしい旅
磐越・甲州いいとこどりハイライト4日間

クラブツーリズム

80歳以上というシニア層に特化し、安全性と快適性を徹底的に最適化した点が評価された。同世代だからこそ生まれる安心感や一体感を醸成し、少人数制を維持しながらもツアーとしての収益性を確保した。ユニバーサルツーリズムの模範として、今後の国内旅行市場における新しい方向性と可能性を示した。

メキシコ
死者の日を巡る3コース

阪急交通社

「深く知る・学ぶ」というテーマ性の深化が高く評価。現地の伝統的な祭りを主軸に据え、その背景にある歴史や死生観を現地との交流を通じてひも解く没入感の高いツアーで、旅行代金に見合う体験価値を創出。旅慣れた旅行客にも新しい知的興奮と深い感動を提供し、海外旅行本来の豊かさや行く意味を提示した。

日本最西端　与那国島×球美の島　久米島を1度で巡る
沖縄離島めぐり4日間

阪急交通社

個人でのアクセスが難しい日本最西端と久米島を一度に巡り、利便性と付加価値を提示。混雑期を避けた日程設定や地域密着型のプログラム構成で、地方分散と閑散期の需要分散に貢献した。現地の文化や暮らしに深く触れる演出を取り入れ、旅行者の知的好奇心を満たした。持続可能な地域活性化への道筋も示した。

■実行委員会（順不同・敬称略）
委員長＝小谷野悦光（JATA特別顧問）
委員＝根来恭子（観光庁参事官〈旅行振興〉）
委員＝原優二（JATA会長）
委員＝峰村均（日本旅行作家協会理事）
委員＝徳野浩司（JATA事務局長）

■審査委員会（同）
委員長＝本保芳明（アジア太平洋観光交流センター〈APTEC〉理事長）
委員＝根来恭子（観光庁参事官〈旅行振興〉）
委員＝大畑貴彦（日本海外ツアーオペレーター協会会長）
委員＝ニコル・キルヒマイヤー（駐日外国政府観光局協議会副会長）
委員＝越智良典（東洋大学客員教授）
委員＝南砂（読売新聞東京本社常務取締役）
委員＝嶺井政敏（航空新聞社ウイングトラベル事業部編集長）
委員＝鶴本浩司（トラベルボイス代表取締役社長）
委員＝積田朋子（観光経済新聞社代表取締役社長）

全体講評

本保 芳明 氏
ツアーグランプリ2026審査委員長
（アジア太平洋観光交流センター理事長）

まずは、ツアーグランプリにご参加いただいた皆さまに御礼を申し上げる。そして栄えある賞を受賞された皆さまに心からお祝い申し上げたい。審査を通じて一番感じたのは、「日本の旅行業界は元気だ」ということ。熱心にお客さまを見て新しいものを作り、一生懸命売りたいという、企画に携わっている皆さんの熱い情熱を一番感じた。

国土交通大臣賞を受賞した「流氷タッチ・おーろら　5つ星の宿　知床第一ホテルに泊まる　ザ・流氷7景2日間」。訪日旅行部門からの受賞で、私の記憶する限りでは、大臣賞に訪日旅行部門が輝いたのは初めて。この作品の素晴らしいところは、普通の国内ツアーにインバウンドを乗せて一つの旅行商品とした点にある。訪日旅行は盛んだが、国内の旅行業者がその需要を取りきれていないことが大きな課題。これを見事に解決し、良いモデルを示してくれた。素晴らしいホームページを使った集客、AIを活用した言語障壁の解消なども含め、総合して訪日旅行にうまく取り組んでくれたことを高く評価した。

それから、観光庁長官賞国内旅行部門の「国消国産応援企画　まるごと但馬in城崎温泉」。旅行業界で一つの課題になっているのが、旅マエ、旅アトを含めて全体の価値をどう作っていくかということだが、この点によく応えている。レベルの高い解説をし、興味を持たせるようなプレゼンテーションをしており、それによって旅マエから関心を高め、最後まで満足して旅行を楽しめる作品を作ってくれた。

それから、観光庁長官賞海外旅行部門の「車椅子利用者のためのエジプト受注型企画旅行（＋募集型企画旅行〝たびのわツアー〟」。エジプトという遠くて渡航難易度の高いところに対して、車いすで試しやすいプランを作ったことに大きな価値がある。エイチ・アイ・エスさんはうまくアクセシブルツーリズムに取り組んでこられている。その意味で、同社の集大成ともいえる作品だ。他の各社の皆さまにも同じような取り組みを期待したい。

それから、観光庁長官賞訪日旅行部門の「Japón Colorido」。作品全体も素晴らしいが、一番評価したのは、スペイン語圏のお客さまに真剣に向き合って取り組んだということ。スペイン語圏は英語圏に次ぐ大きなマーケットだ。いかにマーケット開拓ができるかを示してくれた。

それ以外の受賞作品も、本当に素晴らしいものばかりだった。国土交通大臣賞、観光庁長官賞と比べると「劣っている」と思われるかもしれないが、審査の現場では本当に優劣がつけがたく、その中でなんとか意見を集約して大臣賞、長官賞を選出していった。受賞された皆さんは、大臣賞、長官賞にふさわしい内容だったということで、自信を持っていただければありがたい。

今日の受賞あるいは作品が、受賞された皆さまにとってもちろん大事なものだと思うが、これを参考に、さらに研さんを積み重ねて良い旅行商品を作り、お客さまに喜んでいただくとともに、業界の繁栄をもたらしていただければありがたい。

来年もさらにいい作品で皆さまにチャレンジしていただくことを期待し、私からの講評とさせていただきたい。